



CONTENTS

改選のごあいさつ	2
常任委員会名簿	4
予算の補正	4
農業委員に女性を推薦	5
二事業の繰越額が確定	7
審議された案件	7
合併問題研究会から	8

発行責任者 片品村議会 会
 編集委員 田邊 順一 男
 ◎ 星野 幸正 夫
 ○ 後藤 登喜 司
 人屋 野 村 印刷所
 印刷所 有限会社野村印刷所

片品村

議会だより

PHOTO
武尊牧場のレンゲツツジ

平成14年7月31日発行

第93号

六月定例会において各常任委員会の正副委員長の改選がありました

就任のごあいさつ



総務文教常任委員長

星野 幸男

照りつける太陽の光に夏の躍動を感じさせる今日この頃ですが、村民の皆様におかれましては益々ご健勝のこととご推察申し上げます。

さて、私こと六月定例会におきまして、総務文教常任委員各位のご推挙をいただき委員長に就任させていただきました。浅学非才な私にこの重責を果たせるか不安ではありますが、議員各位や村民の皆様方のご支援とご協力をいただき、職責を全うすべく覚悟を新たにしております。

さて、教育環境は変革の時代に入ってきました。四月から取り組まれている新学習指導要領や学校週五日制の実施等、改革に戸惑いながらも遂行されてお

す。古くは江戸時代より教育への熱意は他国を凌ぐものがありました。藩校や塾、さらには寺子屋等、国の方針で設立された機関だけでなく地域という民衆の力によって教育を支えてきた歴史の経緯があります。

今、正に教育は民衆精神による住民パワーが必要ないかなと思っております。学校・家庭・地域、その連携こそ教育を支える力であり、行政と議会がこの力を後押しすることで教育の発展がなされるものと思っております。「教育は村の正」を理念に努力せねばと考えております。

今や市町村合併の問題は、大きな潮流となって打ち寄せてきております。議会といたしましても研究会を

足させ、時代の流れに対応せねばと研鑽を重ねております。

国の構造改革や地方分権等、合併議論には財政面がクローズアップされがちですが、村の先人達が苦勞を重ね築き上げた歴史や文化、さらには貴重な村の資源としての自然、また、人々の情が育てた生活風土等、ソ

フト面の認識を深めた上での判断も必要なのではないでしょうか。

様々な問題を抱える当委員会でありますが、村当局と一丸となり明日への希望を持てる村づくりに努力して行きたいと思っております。村民の皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。



民生観光常任委員長

入澤 登喜夫

盛夏の候、村民の皆様におかれましては、何かとご多忙の折、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、先の六月定例会において、委員各位のご推挙をいただき、不肖、私が民生観光常任委員長に就任させていただきますました。責務の重大さを痛感するとともに、皆様のご指導のもと、微力ながら一生懸命努力する所存でございます。

さて、景気の低迷も長引き、明るい兆しさえ見えて

えます。最後になりますが、観光、福祉、環境等、山積する問題に対して、村当局と協力し、村の発展のため努力する所存でございますので、今後とも村民皆様のご指導とご

協力をお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。



産業建設常任委員長

星野 司

盛夏の候、村民の皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのこととご推察申し上げます。

私こと、去る六月の定例会での常任委員会正副委員長に就任において、委員各位のご推挙をいただき、産業建設常任委員長に就任させていただきますました。微力ではありますが、議員各位と村民の皆様のご指導とご協力をいただきながら、一生懸命努力して行く所存でございます。

さて、依然として景気の低迷が続いている中で、地



方交付税の減少や村税の減収などにより、村民へのサービスが低下するのではとの懸念もあります。道路整備や農林業の振興を少ない予算の中で効率的に運用することが村民サービスの向上につながると思っております。今後、村当局と十分協議を重ね、村民の皆様のご指導を賜りながら、住民福祉の向上に努めて行きたいと思っております。

今後とも村民の皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

退任のごあいさつ



前総務文教常任委員長

千明 貞夫

署さがお一層厳しいこの頃ですが、村民の皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのこととご推察申し上げます。

去る六月定例議会において、総務文教常任委員長を退任いたしました。委員各位並びに村民の皆様のご支援、ご協力をいただき、この大役を果たすことができましたことを、心より厚くお礼申し上げます。

さて、本村においては、北部下水道処理場の完成、花咲地区の農業集落排水工事では残すところ処理場のみとなり、また、住民のコミュニケーションの場としての住民センター等の整備も、徐々に進んでおります。こうした事業については、さらに進めて行き、環境整備に心がけて行く必要があると思

ます。

また、これと平行して、村営事業の見直しも図って行かなければならないと思えます。村が関わっている施設が多くなり過ぎてはいないか、不必要な施設は無いのかなど、良く検討して行く必要があると思えます。最後に、残された任期を、村民の皆様のご指導をいただきながら、これらの問題に取り組んで行きたいと思えますので、ご支援の程をよろしくお願い申し上げます。退任のご挨拶といたします。



前民生観光常任委員長

星野 育夫

盛夏の候、村民の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、私ごと、先の六月定例会において、民生観光常任委員長を退任いたしました。在職中は、多くの皆様からご指導、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、一向に景気回復の目途が立たない現状の中で、本村の観光産業も、関係各位のご努力にも関わらず、やはり、回復の見込みすら立っていない状況であると思えます。岡全体の景気回復を望むことはもちろんですが、景気が回復したとしても、バブル時代のように大勢の観光客が押し寄せるといことは、現在の社会情勢を考えると、期待できそうにありません。時代のニーズに合った斬新なアイデアが必要とされており、また、そうして行かなければ観光地として生き残れな



い時代が来ているのだと思えます。また、今年に入り、片品村においても環境問題が深刻になってきていることと思えます。尾瀬への携帯電話基地局の設置の問題に始まり、尾瀬での不法投棄の問題、さらには武尊牧場のゴミ処理の問題等々、尾瀬をバックに優れた環境の村として知られている片品村にとって、不法投棄の問題が新聞紙上を賑わすことは、計り知れない損失があるものと考えます。村当局としても、早め早めに対処していただき、こうした問題が起こることが無いよう、切望したいと思えます。

最後になりましたが、今後委員会の一員として、様々な問題について考えていきたいと思っておりますので、皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。退任のご挨拶といたします。



前産業建設常任委員長

千明 金造

産業建設常任委員長の退任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。私事、この度の六月定例会において、委員長の職を退任いたしました。在任中は委員各位や村当局を始め、村民の皆様方のご支援、ご協力に對しまして厚くお礼申し上げます。

当委員会は経済課、建設課、ダム対策課の事務を所管とし、昨年来、国民に大きな不安と生産者に多大な損害を与えた牛海綿状脳症(BSE)を始め、先行きに不安を抱える農業の問題、着工へ向け環境問題を含め調査中の椎板トンネルを始め、住民生活に直結した道路整備の問題、また、住民のより安全で文化的な生活向上と美しい自然環境の保全を目的とした上下水道の



問題等々につきまして、委員会として真剣に取り組んで参りました。

昨年、一部供用開始の北部浄化センターと共に進行中の花咲地区農業集落排水事業も、平成十五年度供用開始に向け処理場の建設が着工となり、また、計画以来十五年余り経過した戸倉ダムの問題も環境影響評価書の公告縦覧が終了し、村経済の活性化に一日も早い本格的な着工を念願しております。今後も議員の一員として、また、当委員会の委員として、村政発展のため全力で努める所存でありますので、村民の皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

六月定例会における各常任委員会の 改選後の委員長等は次のとおりです

片品村議会常任委員会名簿

(平成十三年六月十一日現在)

◎印＝委員長 ○印＝副委員長

職名	氏名	住 所	
議長	田邊 順一	下平 甲二三七	
副議長	後藤 正一	越本 一一四七	
総務・文教 常任委員会	◎星野 幸男	花咲 一三四〇	
	○角田 政弘	須賀川 一八二	
	笠原 多吉	越本 九五四一	
	千明 貞夫	摺淵 一〇八九	
	萩原 行雄	土出 一一一七	
	後藤 正一	越本 一一四七	
	◎入澤 登喜夫	越本 一五七七	
	○星野 大吉	東小川 四四三一	
	星野 完治	東小川 三三二九	
	星野 長三	須賀川 三三一	
民生・観光 常任委員会	星野 育夫	須賀川 一六三	
	田邊 順一	下平 甲二三七	
	◎星野 昭夫	菅沼 二六六一三	
	○奥原 昭夫	鎌田 四〇七八	
	産業・建設 常任委員会	千明 弘志	築地 一二五
		吉野 賢治	土出 二二九〇
		萩原 和好	戸倉 六一〇
		千明 金造	針山 五

こんなことが決まりました



▶ 今年度に建て替えが
決定している南保育所

一般会計は南保育所の
用地購入費・奨学資金など
一千八七〇万円の補正

今回の補正は、一般会計で総額一、八六九万四千円の増額となり、予算総額は四〇億八、八六九万四千円となりました。款別で見ると、歳入の主なもの、地方交付税の一、七八七万七千円です。また、歳出では民生費の三四二万円、土木費の二〇〇万円、教育費の一、一七五万八千円が主なものです。

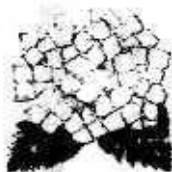
平成十四年度(一般・特別) 予算補正

一般会計補正予算(第一号)

歳入及び歳出(単位＝千円)
補正前四〇億七〇〇〇万〇
補正額 一八六九万四
補正後四〇億八八六九万四

補正内容の主なもの、歳入では地方交付税のほか、教育費関係の県支出金(八、一七七千円)の増額で、歳出では民生費で南保育園の

用地購入費(三四二万円)の増額、土木費で下水道事業特別会計への繰出金(二〇〇万円)の増額、教育費で奨学基金への繰出金(九〇〇万円)の増額などです。



観光施設事業は圧雪車
購入代金二千七〇〇万円の
債務負担行為

観光施設事業特別会計
補正予算 (第一号)

債務負担行為(単位:千円)
事項 圧雪車整備事業
限度額 二、七〇〇万〇
期間 平成十四年度、
平成十五年

内容は、債務負担行為の
補正で、オグナほかかの圧
雪車購入のためのものです。
財政状況が非常に厳しく

収入の見込みも不確定のため、平成十四年度と十五年
度の二カ年で二、七〇〇万
円を支払って行くというも
のです。
この二、七〇〇万円は、
今後の収入の状況により、
平成十四年度と十五年度に
振り分けて支出されます。

下水道事業は
二〇〇〇万円の増

下水道事業特別会計
補正予算 (第一号)

歳入及び歳出(単位:千円)
補正前 億六三八〇万〇
補止額 二〇〇万〇
補正後 億六五八〇万〇

補正内容の主なものは、
歳入では一般会計繰入金
(二〇〇万円)の増額です。

歳出では下水道事業費の
負担金(二〇〇万円)の増
額によるもので、国道四〇
一号の工事箇所の泉坂橋に、
N.T.Tと共同で電話回線と
片品村の下水道管を添架さ
せるものです。



債務負担行為とは?

支出の原因となる契約等の債務を負担するだけの権限に基づく行為、つまり、「何々の事業をこの金額を限度として行う」ということを示すことであり、実際の歳出予算の中には含まれていない。

支出を必要とするときは、改めて歳出予算に計上しなければならない。

女性二人が農業委員に
推薦されました

片品村農業委員会の委員
に次の方々が推薦されまし
た。

特に星野ゆうさんと笠原
さく代さんは、女性として
初めて農業委員に推薦され
ました。女性ならではの感
性と経験を活かし、頑張っ

てもらいたいと思います。
なお、議会推薦による農
業委員は五名から三名に削
減されました。

- ・星野 ゆうさん(菅沼)
- ・笠原さく代さん(越本)
- ・星野 司

公平委員には
深見氏を再任

片品村公平委員会委員の
深見俊司氏が、平成十四年
八月十六日に任期満了とな
りますが、深見氏は、識見
も高く適任者であり、引き

続き頑張っていたきたい
ということで、再任されま
した。

- ・深見 俊司氏(鎌田)

固定資産評価審査委員に
二人の方を新たに選任

片品村固定資産評価審査
委員会委員の星野正夫氏と

に委員に選任されました。

星野賢二氏が六月二十四日
で任期満了となりますが、
小林正雄氏と千明好次氏が、
人格及び識見ともに適任者
であるということで、新た

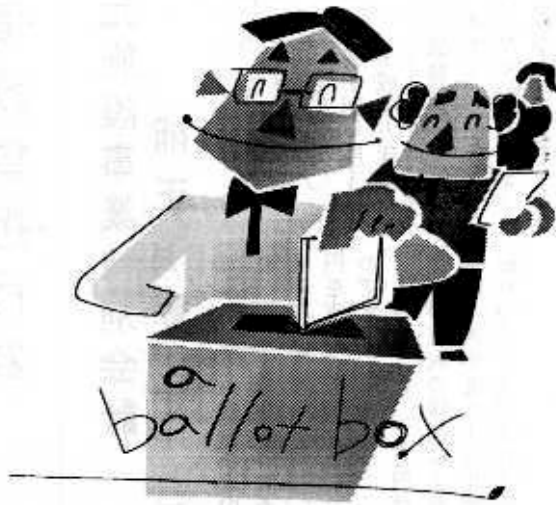
- ・小林 正雄氏(築地)
- ・千明 好次氏(東小川)



クリーンセンター議会議員に 三人を選出

利根東部衛生施設組合議
会議員の千明弘志、星野大
吉、千明金造の辞職に伴い、
同組合の議会議員に次の者
が当選しました。

- ・星野 幸男
- ・入澤登喜夫
- ・星野 司



専決したものの四件を承認

◇片品村税条例の一部を 改正する条例

地方税法の一部を改正す
る法律が三月二十一日に公
布されたことによる改正で
す。

主な内容は、村民税につ
いて、低所得者層の税負担
に配慮するため、生活扶助
額とのバランスにより均等
割の非課税限度額の加算金
額を改正するもので、加算
金額一五万二千元を一九万

改正する条例

二千元に改める(一定の条
件を満たす低所得者の課税
の基となる所得額が引き上
げられる)ものです。

また、所得税確定申告書
等の全面改正を踏まえ個人
住民税申告書との整合性を
図るため、分離課税用様式
が別表化されたことに伴う
改正などです。

専決処分とは?

議会の権限に属する事項について、
村長が議会に代わって意志決定を行う
ことで、専決処分をすれば議会が議決
したのと全く同じ法律効果を生ずる。

専決処分は、地方自治法に規定され
る特別の事情がある場合にのみ許され
る。

◇片品村過疎対策のための 村税の課税の特例に関する 条例の一部を改正する条例

租税特別措置法の一部を
改正する法律が、去る三月
三十一日に交付されたこと
に伴う改正です。

この条例は、固定資産税
課税の対象となる事業等に

ついて租税特別措置法から
資産要件を引用しているた
め、この法律が改正され引
用先が変わったために条例
を改正するものです。

◇平成十三年片品村 一般会計補正予算(第五号)

歳入及び歳出(単位:千円)
補正前四五億九八二万二
補正額 一億三三九万八五
補正後四七億二二一九万七

三月定例会閉会後に、地
方交付税及び交付金等が確
定したための補正です。
補正内容の主なもの、
歳入では地方交付税(一億

二、一六五万七千円)のほ
か、利子割交付金(四七五
万五千円)、自動車取得税
交付金(三〇九万二千円)
の増額などで、歳出では総
務費の財政管理費(一億一
三九八万五千円)で、この
金額は、すべて、財政調整
基金へ積み立てられました。

◇群馬県市町村総合事務組合 規約の一部を改正する規約

群馬県市町村総合事務組
合に、新たに、渋川地区医
療事務組合が加入したこと
によって、その規約の一部
を改正するもので、規約
に「渋川地区医療事務組合」
を加えるものです。



合併処理浄化槽設置事業と 下水道工事の繰越額が 確定しました

確定しました

◎平成十三年片品村一般会計

繰越明許費繰越計算書

平成十三年度一般会計の衛生費において、既に申請済みの合併処理浄化槽基礎分が申込者の都合により年度中の完成が見込めなかつたため、平成十四年度へ七百万五千円を繰越明許費とするものです。

◎平成十三年片品村下水道事業

特別会計繰越明許費繰越計算書

下水道事業の繰越明許費の総額は六、三三五万円で、その財源として、国・県の補助金五、二二万四千円、村債八〇〇万円、一般財源三、一三万六千円となっております。

その他の主な議決事項

●片品村税条例の一部を 改正する条例

地方税法の一部を改正する法律が三月三十一日に公布されたことによる改正です。
主な内容は、固定資産税徴収にあたり、課税明細書の送付が義務づけられたことによる改正や縦覧制度の見直しなど情報開示についての措置が講じられたことによる改正、そして、マンション建て替えの円滑化を

図るための法律制定に伴い、等の区分の規定を改正する均等割の税率における法人 といったものです。

●片品村国民健康保険税条例の 一部を改正する条例

地方税法の一部改正に伴い、国民健康保険税納税義務者の申告についての特例等に関する改正です。
内容は、上場株式等取引報告書の提出義務が課されたことに伴い、課税標準の算定に関する規定の整備です。また、上場株式等に係る譲渡損失の繰越控除に係る国民健康保険税の課税の特例について、規定の整備を行うものです。

●片品村議会会議規則の 一部を改正する規則

地方自治法第一〇〇条第一二項の改正に伴い、規則を改正するものです。
内容は、研修、調査等、議員派遣の必要が生じた場合、議会の議決等、一定の手続きを経て議員を派遣することができるとする規定を整備するものです。

議会を傍聴してみませんか



議会定例会は三月、六月、九月、十二月の年四回開催されます。議会が開かれている間で、村民の皆さんが都合のよい時間に傍聴することができます。
傍聴を希望する方は、議会事務局までお問い合わせ下さい。

電話 五八一二二二

(内線五三)

片品村議会事務局

※ご意見、ご要望も

お待ちしております。

E-mail: gikai@vill.katashina.gunma.jp

六月定例会

(六月六日)

審議された案件

- 片品村税条例の一部を改正する条例について
- 片品村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
- 専決処分の承認を求めることについて(四件)
- 平成十三年片品村一般会計繰越明許費繰越計算書について
- 平成十三年片品村下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について
- 平成十四年度片品村一般会計補正予算(第一号)について
- 平成十四年度片品村営親光施設事業特別会計補正予算(第一号)について
- 平成十四年度片品村下水道事業特別会計補正予算(第一号)について
- 片品村公平委員会委員の選任について
- 片品村固定資産評価審査委員会委員の選任について(二件)
- 片品村議会会議規則の一部を改正する規則について
- 総務文教・民生観光・産業建設常任委員会正副委員長の互選の報告について
- 片品村農業委員会委員の推薦について
- 利根東部衛生施設組合議会議員の選挙について
- 閉会中の継続調査申し出について
- ※全案件とも全会一致で、原案どおり可決、承認されました。



合併問題研究会から

去る六月十日、利根沼田文化会館において「市町村合併問題講演会」が開催され、片品村からは議員はもとより、当局側からも多くの方が参加し、勉強しました。

講師には、前内閣官房副長官である石原信雄氏を迎え、「地方分権時代における市町村合併について」というテーマで行われました。石原氏は、平成九年には、浦和市・大宮市・与野市合併推進協議会の会長を務め、さいたま市の誕生に大きく貢献した実績もあります。

講演は、地方分権一括法施行の話から始まり、市町村行政を



▲ 講演会の様子

取り巻く環境の変化（少子高齢化・環境問題・IT革命等々）、経済構造の変化に伴う財政危機の深刻化などについて話された後、なぜ市町村合併なのか、といったことについて、その豊富な経験を活かして分かり易く説明されていました。

ただ、石原氏の講演は、合併を推進する立場からの話であり、合併のデメリットについてはあまり触れず、また、合併をしないことのメリットや財政措置の問題などについては、勉強することはできなかったと思います。

合併をするにしてもしないにしても、結果的には「住民の意見が尊重されなければならぬ」と私たちは理解しています。今回の講演は、ともすると、市町村に暮らす住民のことをあまり考えていないのではないかと、国の財政危機だけを乗り切るための押しつけ的な内容ではないのか、そう感じる場面もあつたような気がします。

ともあれ、合併問題の国としての立場は良く理解できたと思います。今後、色々な方に色々な立場からの話を聞いて行く必要があるのではないかと、そんなことを強く感じた講演でした。

議会活動日誌

- | | | | |
|----------------------|---------------------|---------------------|--------------------------|
| 5・8 片品農協生産者大会 | ニング大会 | 7 利根沼田植樹祭 | 8 議長杯グランドゴルフ大会 |
| 10 議長杯ゲートボール大会 | 27 尾瀬長方会理事会 | 10 利根沼田地域合併問題研究会 | 9 国道120号線期成同盟会総会 |
| 13 全員協議会 | 28 敬老会 | 12 行政懇談会 | 10 少年の主張尾瀬大会 |
| // 区長・議会懇談会 | 29 正副委員長会議 | 13 新生活運動推進協議会 | 11 国道401号線期成同盟会総会(中止) |
| 15 農業委員会 | // 全員協議会 | 18 納税表彰式 | 16 花の駅片品運営委員会 |
| 17 利根沼田国民健康保険運営協議会総会 | 30 利根地方総合開発協会理事会・総会 | 19 利根東部衛生施設組合議会 | 17~18 利根沼田広域圏理事・議員合同視察研修 |
| // 利根郡町村議会議長会 | // 利根郡社会福祉協議会役員総会 | 20 白根山山開き | 19 利根沼田広域圏議員協議会 |
| 20 奨学金審査委員会 | 6・1 利根沼田議会議員親善大会 | // 小口資金融資審議会 | // 尾瀬長方会理事会 |
| 21 森林組合総会 | 3 武尊山山開き | 21~26 議員研修 | 23 第4回臨時会 |
| 22 尾瀬山開き | 4~5 群馬県町村議会議長会研修会 | 27 老人クラブグランドゴルフ大会 | // 民生観光常任委員会 |
| // スキークラブ総会 | 4 村民ゴルフ大会 | 28 尾瀬高校後援会総会 | 25~26 関東甲信地区中高一貫教育研究会 |
| 24 社会福祉協議会理事会・評議員会 | 6 第3回定例会 | 7・1 国民平和大行進 | |
| 26 県民スポーツ祭オープ | | 7~4 利根郡町村議会議長会視察研修 | |
| | | 8 社会福祉協議会評議員・福祉委員研修 | |

編集後記

▼片品村を取り巻く尾瀬・武尊・白根の山々、片品の農業や観光といった自然の恵みを育み、また、村民の心のよりどころとしてそびえる山々、それぞれの山が夏の本格的な観光シーズンに備え、安全と入り込み増の願いを込めオープンした。▼長引く景気の低迷、観光ニーズの多様化等、村の観光産業は大きな痛手を受けている。草木や山々にみみぎる活動の息吹き、これらの活力が農業や観光の振興に共鳴されればと祈るばかりである。

▼さて、六月定例議会は去る六月六日に開会された。定例議会では、村税、国保税の両条例の一部改正が二件、専決処分承認が四件、一般会計及び観光・下水道事業特別会計の予算補正がそれぞれ一件、議員発議が一件、さらに片品村公平委員や農業委員会委員等の選任が上程された。▼中でも、片品村農業委員会委員の推薦においては、女性委員二人が承認された。女性委員のご活躍を期待するところである。▼地方自治の現況は厳しさを増している。生命線である財源の確保に村当局も苦慮されている。「入るを計り出ざるを制す」の精神を実践していただき、行政サービスの低下だけは避けたいものである。▼日韓両国で開催されたワールドカップ・サッカー大会、日本中が絶叫の渦に巻き込まれた。優勝、劣敗の現実、その時々々の勝敗に狂喜乱舞、様々であったが、日本中を席巻するサッカー熱波が景気浮揚の刺激剤になればと願うばかりである。

(幸男記)